ラッセル・露岩・藪・キノコ雪　何でもありのマイナールート

信越国境　岩菅山～烏帽子岳～笠法師山～切明温泉

【日程】
2015年12月28日(月)～31日（木）
【メンバー】
佐貫（L）、棚橋
【地形図】
岩菅山、切明
【記】棚橋、佐貫

雪が降らない！雪山といえば道のないルートしか頭にない人間としては絶望的な状況の中、どんどん近づく年末。地図という地図を眺め、「道はあっても人がいないルート」を次善の策として探し出すこと数日、エアリア破線の岩菅山から笠法師までの稜線が目についた。厳冬期の縦走記録は見つからず、地形図だけを手掛かりに行程と装備を弾き出して計画をまとめる。あまり馴染みのないこの山域、果たして読みは当たるのだろうか。

12月28日（月）：晴れ

昨晩は30年振りに降り立った長野駅の近代化ぶりに衝撃を受けたが、今朝はその長野駅より先ず長野電鉄長野線に乗って湯田中駅に移動し、更に長電バスに乗り換えて一ノ瀬スキー場を目指す。志賀高原が近づくにつれ山も徐々に白くなり、気分も高まる。出発時は空いていたバスも、スキーヤーがどんどんスキー場目指して登って来るからか蓮池の辺りでは乗り切れない程の混み具合となり、「ようやく待望の冬が来た！」という喜びに満ち溢れているようにも感じられた。（それは自分のことかも）

一ノ瀬スキー場で何とか満員のバスを下車して準備を整えた後、登山口に向けて歩き始める。大型バスが林道の入口で通せん坊しているのに先が綺麗に圧雪されていたが、それは高校生達のクロカンスキーの練習のためのようだ。以前8月に訪れた時も新潟の複数の高校が合同で合宿していたのを思い出す。邪魔をしないように、できるだけ端を歩く。彼らを見ていると私もスキーの参考になる。

30分ほどで登山口に着き、ここでスノーシューを装着する。行き成り急登から始まったが、間もなく一ノ瀬から上条用水沿い経由の道と合流すると傾斜も緩む。途中で幅狭の橋を2度ほど渡るが、雪が三十三間堂の屋根のようにこんもりと積もっているので一歩一歩蟹歩きで慎重を期す。アライタ沢を渡った後は、いよいよ標高を稼げるようになる。天気も良く、日差しが暑い位なのでヤッケを脱ぎ、パンパンに膨らんだザックに何とか詰め込む。今はこんなに好天だが、今晩から明日にかけてはそれなりの降雪と強風予報が出ている。岩菅山の避難小屋はいかにも吹き溜まりそうな位置に建っていることはわかっていたが、そんな天気予報のこともあり幕営予定地のノッキリを通り過ぎ、駄目元で岩菅山まで足を延ばしてみることにする。

岩菅山に着くとやはり避難小屋は概ね埋まっていた。しかし切妻屋根の一部が見えていたので、扉目掛けて掘ってみることにする。すると雪は硬くないので30分強で扉の下部まで掘り出すことができた。しかし少しだけ残念だったのは、以前泊まって時にはあった薪がなかったことだ。それでも小屋のお陰で静かに眠ることができた。しかし夜半より恐ろしく冷え込んだ。（棚橋記）

12月29日（火）：風雪、午後から晴れ

小屋を出るとガスと風雪。視界はあまり良くない。天候回復との予報だがしばらくはこの状態が

続きそうだ。裏岩菅山をはっきりと見ることのできないまま、モノトーンの世界を一歩ずつ進んでゆく。一晩明けても背中のザックは一向に軽くはなっておらず、重い足取りだ。

ダラダラした登りをしばらくこなし、やや急な斜面を上がると一気に風が強くなった。裏岩菅山の山頂、ここから先はエアリア破線地帯である。広めの尾根をしばらく下らなければならないが、あまりの吹き曝しで地図を眺めたり休憩したりする状況ではない。とりあえず少し下り、改めてルートを検討する。刈り払いされているかもしれない夏道はどこだかまるで分からないが、方向を定めて進むしかなさそうだ。烏帽子岳へ向けて東へ方向転換しなければならない地点は地図を見る限り分かりづらそうで、うっかりすると通り過ぎるのではないかと心配する。

が、しかし…その心配は無用であった。下るにつれどんどん立木が密になってきて、出だしは滑降のような直線レースだったのが次第に大回転に、そしてすぐにスラロームへと変化。まっすぐ進めないだけでなく樹々の間の雪にはまったりして一気にペースが落ち、通り過ぎるどころか下りのはずなのになかなか距離が稼げないのである。ぐぬぬ。天候回復の兆しも見えず、「はまったか」と思ったりしながらひたすらパイロンスラロームを続けるうちに方向転換地点に到着した。

「中岳はまだか」と思いながら歩いていると、ガスの向こうに急な小ピークが出現。どうやら中岳の前衛ピークだが、さらに先にある中岳を越え烏帽子岳を過ぎたあたりまで行かなければ幕場は得られないだろう。時間は12時45分。ちょっと考えて、今日は早じまいと決めた。整地が終わりテントが立つ頃になって急に青空となり、翌日越えなければならない急斜面がよく見えた。放射冷却のせいか、夕方以降の冷え込みが半端ではなく、あまり眠れない夜となってしまった。（佐貫記）

12月30日（水）：曇りのち晴れ

幕営地は標高2000m以下ではあったが、えらく冷え込んだ。出発早々岩場が現れ、今回の山行では初めてアイゼンに履き替える。先ずは正面突破を試みようと一段登ってみたが、上部が思った以上に嫌らしい感じだったので一度下りて右から廻り込む方にルートを求めることにする。結構立っているのでロープは出したがプロテクションも得易く、こちらの方が正解だった。夏道もこちらに付いているようだ。登り切ったところでロープを仕舞ったが、尾根がギザギザの上に細く、キノコ雪が続く様相なので、アイゼンラッセルで進む。潜るのは膝位であったが取り付き直したこともあり結局出発から3時間掛けて、ようやく中岳に着く。

この先でまたスノーシューに履き替える。天候の回復が予報より遅く、未だどんよりとしているものの降雪はない。烏帽子岳に向かうとは思えないたおやかな尾根を進むと、小さな標識のある烏帽子岳に着く。私は烏帽子山(岳)コレクションをしているので、これでまた一座ゲット。もの凄く急な斜面を下り切り、振り返ると荒々しい烏帽子岳本来の姿が眺められた。この辺りは幕営適地ではあるが明日の下山後の本数の少ないバス時刻のため、もう少し頑張ることにする。谷を乗っ越す様に笠法師山に続く尾根に取り付き、更に歩を進める。そして16時、風を避けられそうな場所を見つけて幕とする。いよいよ明日は念願の笠法師登頂だ。（棚橋記）

12月31日（木）：晴れ時々曇り

もう笠法師山南側の細いところは抜けたはず、と思い出発して間もなく、尾根は再び岩っぽく急になってしまった。仕方ないのでアイゼンとピッケルに替えてよじ登る。新しいフィックスロープが雪の下にあった。悪場はワンポイントで済み、スノーシューに戻して笠法師山にじわじわと近づ

いていく。山頂まではもう狭くも急でもないのに夏道がぐるりとピークを迂回するようについているのが不思議だったが、迂回開始地点でその理由が分かったような気がした。恐らく根曲りの笹藪があまりに密で、刈っても刈ってもあっという間に元に戻ってしまうからではないだろうか。強靭な藪にはふわっと雪が載っていて一見平らに見えるものの、あれに乗って進む？ほとんど宇宙遊泳じゃないの？切明温泉から和山まで歩いて16時10分の最終バスに乗ることを考えると、ここで時間の読めない藪漕ぎで山頂を目指す余裕はなさそうだし、巻き道通りでいいのではと思ったが、ピークにこだわる相方は全くその考えはないようだ。やむを得ず巨大笹藪トランポリンに突入する。山頂が近づくにつれ藪は笹から針葉樹の立木に変わり、ますます進みづらくなっていった。藪マイスターがルートを見出し、どうにかこうにか笠法師山の一番高いところに立つ。ふう。無雪期は分速1m以下との話もある藪に守られたこの山頂、踏む人は年間何人くらいいるのだろうか？

登山道に復帰しようにも周囲はどこも急なので、少し戻って東側斜面を無理やり下る。まだ道形がかろうじて判別できる程度の積雪だったので上手いこと道に復帰できたが、これ以上積もったら分からなくなるだろう。それ以前に雪崩も心配だ。歩くうちに4年前の記憶が次第に蘇り、確か下部はひたすら九十九折れになっていたことを思い出した。確かに1400m位から下はこれでもかというくらいにグルグルと左右に転回を繰り返し、目が回りそうになって来る。車道が見え、発電所上部の施設が近づいても九十九折れは続く。九十九どころか全部でその倍くらいはありそうなグネグネ道をひたすら下り、やっと取付に到着した。切明から和山までの車道歩きは辛かったが、予想よりは時間がかからず、和山の民宿で温泉に入れてもらいさっぱりしてバスに乗り込む。津南でバスを乗り換え、湯沢に出て生ビールで乾杯。充実の4日間に祝杯を上げてガラガラの新幹線で帰京した。

（佐貫記）

小屋の入り口を掘り出す

烏帽子岳の手前のモンスター群

中岳付近のキノコ雪地帯

【感想】

今年はいつまでたっても雪が降らず思った所に行けないなと思っていたところに本ルートの提案を受け、この状況に於いてはうってつけと飛びついた。岩菅山から烏帽子岳、更に以前に中退している笠法師を結ぶ稜線は、厳冬期に訪れるパーティなど殆どいないことが想像できた。残雪期なら1泊ルートかも知れないが、敢えて厳冬期に訪れることに価値を見出せる人には、変化に富んだお勧めルートだと思う。夜行列車など殆どない現在でも、何とか公共の交通機関だけで往復できることも秀逸だったと思う。(棚橋)

岩菅山から先、地形図で見る限りはそれなりに面白そうと思い考えたルートである。実際に岩場や細尾根の通過時は登り易そうなところを選んでみると雪の下から夏道用のマーキングが出てきたりして、自分達のルートファインディングもさほどまずくはないことが分かり安心した。いつもの山域ではないという不安もあったが、そんなエリアでも装備や行程の読みが当たったことはうれしい。これまで他人のトレースや記録がない山に登り続けてきたことは無駄ではなかったことが確認できた、ということにしておこう。 (佐貫)

【行程】

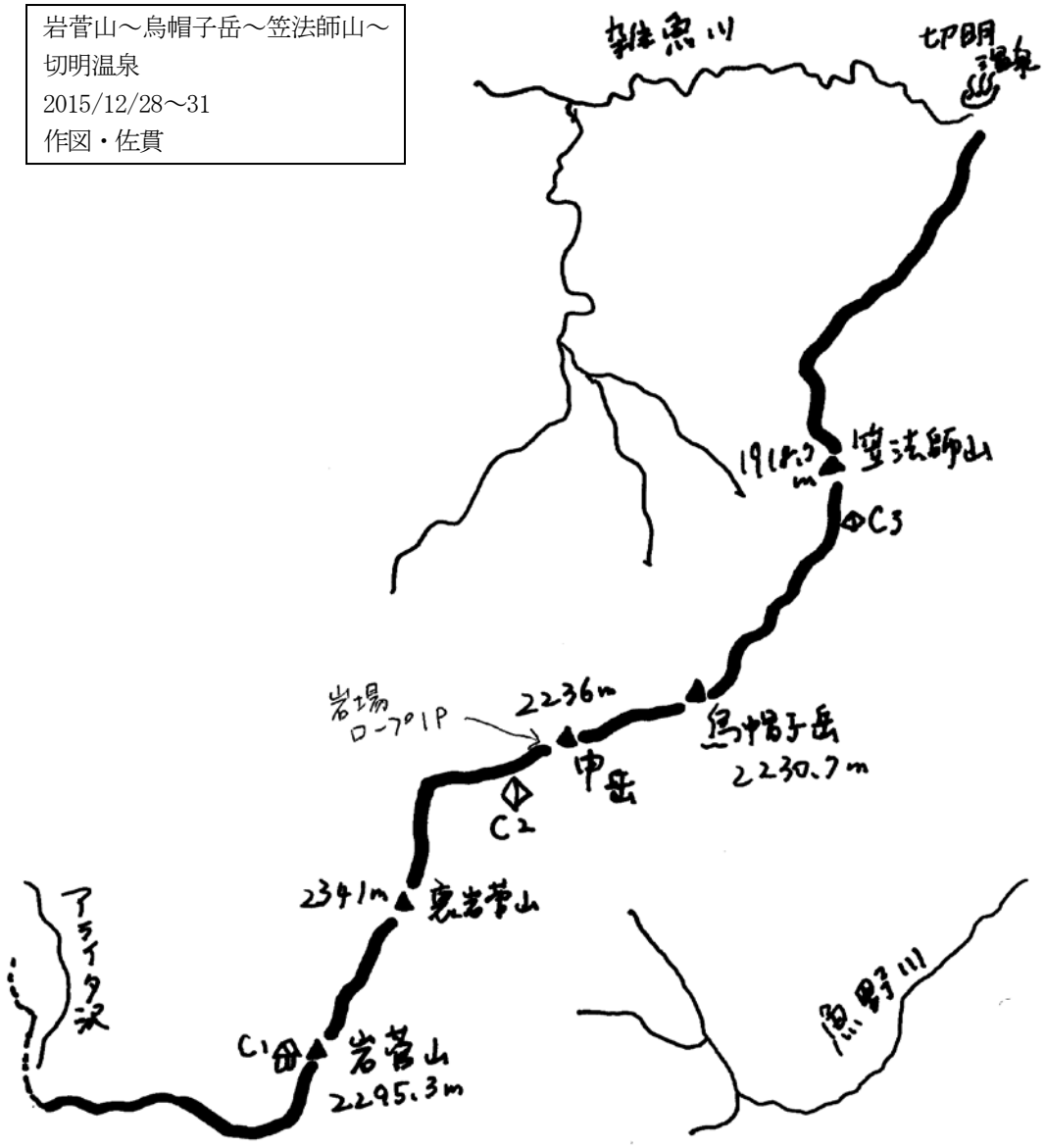
12/28　一ノ瀬(9:00)～登山口(9:32/42)～ノッキリ(13;58/14:06)～岩菅山C1(15:33)

12/29　C1(7:40)～裏岩菅山(10:22)～中岳手前Co2175C2(13:00)

12/30　C2(7:25)～中岳(10:27)～烏帽子岳(12:02/14)～笠法師山手前Co1870C3(15:58)

12/31　C3(6:56)～笠法師山(8:41)～切明発電所()～切明温泉(13:14)～和山温泉(14:26)

笠法師山南側は細尾根となっている

笠法師山手前の藪
この後もっと濃くなった

岩菅山～烏帽子岳～笠法師山～
切明温泉
2015/12/28～31
作図・佐貫